

2026年5月12日

『広報研究』第31号投稿募集要項

日本広報学会 学会誌委員会

学会誌『広報研究』第31号（2026年3月発行予定）への投稿を募集します。

『広報研究』に掲載された論文等は、J-STAGE（文部科学省所管の国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナル）にも掲載されますので、世界中に研究成果を公表することができます。

当学会は実務家と研究者が対等な立場で参加し交流することを旨としています。学会誌にも実務家から積極的に投稿いただき、交流の場として活性化させたいと考えます。

本誌には下記のとおり多様な投稿カテゴリーが設けられています。近年、各カテゴリーの狙いや特性をよく理解されずに投稿されることが多くなっていますが、各投稿カテゴリーの「解説」をよくお読みいただき、奮ってご投稿ください。

【主なスケジュール】

- 投稿申し込み期限：2026年8月31日（月）24:00
- 投稿期限：2026年9月14日（月）24:00
- 発行予定：2027年3月下旬

【投稿申し込みと投稿の方法】

- 学会 Web サイトに設けた[投稿申し込みフォーム](#)に入力してお申し込み下さい。
- 投稿用フォームのリンクは申込者に別途お伝えします。
- 原稿は必ず、『[『広報研究』第31号論文フォーマット](#)』に従って執筆してください。

【各投稿カテゴリーの解説】

下記 a)~e) の原稿分量はいずれも本文 24,000 字以内（15 ページ以内／注釈・図表・参考文献を含む）。f)、g) については申し込み後に委員会にご相談ください。

I. 査読付きカテゴリー

学会誌委員会が委任する査読委員（基本的に当学会会員）2 名による「査読」(Peer Review) を通じて、投稿作品の学術的な価値を評価し担保するカテゴリーです。

査読にあたっては、投稿者・査読者が互いに匿名となるように運用し（ダブル・ブラインド方式といいます）、適正な評価が行われるように厳密に配慮しています。

a) 「論文」

「新しい知見に寄与する内容で、学術論文としての基準を満たす研究成果を発表するものとする」(「日本広報学会誌『広報研究』の編集・発行等に関する規程」第2条より、以下同)

《解説》

「学術論文としての基準を満たす」とは、以下の各条件をすべて満たしていることを指します。

- ① 研究上の問い(リサーチ・クエスチョン)が明確であり、先行研究レビューによって問いの新規性/独自性が厳密に確認されていること
- ② 実証の手法(社会調査や実験、分析など)が的確であり、かつ一般的な研究倫理が担保されていること
- ③ 記述において、概念や用語が厳密に定義されていること。
- ④ 記述において、自説と引用部分が明確に区別されており、引用部分については出典が厳密に明記されていること
- ⑤ 学会誌委員会が定めた「投稿の手引き」が求める書式を厳密に守っていること

b) 「総説」

「広報研究の歴史的背景、重要性、進捗状況、今後の発展の方向への示唆など、国内・国外を問わず、幅広く展望するものとする」

《解説》

広報研究は、経営学、倫理学、社会学、メディア論、記号論、歴史学、公共哲学などさまざまな学術的知見の融合分野です。すべての分野を網羅している方は非常に少ないでしょう。

そこでこのカテゴリーにおいては、各筆者が主に属する研究領域における学術的知見を体系的かつ厳密に活用していることを大原則としつつ、広報領域における新たな視点や課題を提示することを期待します。

c) 「事例研究」

「現実事象から一般的な理論を導き出すための基礎資料の分析、理論、方法および企業・団体等のケース・スタディ等とする」

《解説》

ビジネススクール等で用いられる教育目的の「ビジネスケース」(事実を脚色・再構成した教材)は、本誌が求める事例研究とは異なることにご留意ください。

本誌への投稿は、実際の事象に基づく調査・分析を前提とします。特定の事例(一つまた

は複数)について、詳細かつ多面的な調査(観察、インタビュー、文献調査など)を行い、得られた情報から「What」「Why」「How」を論理的に抽出することが求められます。

II. 査読なしカテゴリー

学会誌委員会における合議によって採否を決定します。採否にあたっては当学会設立趣旨や会則に則して適切か否かを評価します。

d) 「研究ノート」

「新しい知見に寄与しうるもので、速報性、記録性が求められる研究を中間発表的に取りまとめたものとする」

《解説》

「論文」が一定の完結性をもった研究成果の発表であるのに対し、「研究ノート」は、問いの提起、予備的考察、方法論の試論、調査の中間報告など、研究過程にある知見を共有することに意義があるカテゴリーです。a)で示した条件①「リサーチ・クエスチョンの新規性／独自性」や、先行研究レビューの網羅性は論文ほど求めませんが、研究上の問いと手続きは明示してください。

e) 「実務からの考察」

「実務家会員がアカデミックな形式にとらわれずに経験に基づく論考をまとめ、発表するジャンルとする」

《解説》

実務家会員が現場での経験を通じて得た知見を、広報研究への問題提起として論じるカテゴリーです。学術論文に求められる先行研究レビューや実証手続きは必須としませんが、実務経験に基づく独自の視点と、現象に対する考察(なぜか・何を意味するか)が求められます。単なる業務報告や成功事例の紹介とは異なり、研究者・実務家双方にとって示唆を持つ内容であることが掲載の基準となります。

そのうえで、「自説と引用部分の区分」および「出典明記」については、「投稿の手引きが求める書式」に従い、厳密に守ってください。学術的な誠実さを保つうえで、すべての投稿に共通する基本的な要件です。

f) 「講演」

「本学会の総会、研究発表大会、公開シンポジウムなどで行われた講演のうち、学会誌委員会が適当と判断したものとする」

《解説》

当学会では年間を通じてさまざまな講演が行われています。各主催者（委員会、部会など）において、会員と共有すべきと考える講演記録がある場合に、このカテゴリーでの投稿をご検討ください。掲載可否は委員会において決定します。原稿準備をされる前に、必ず委員会にご相談ください。

g) 「書評」

「会員の役に立ち、関心を喚起すると思われる内外の書籍を紹介し批評するものとする」

《解説》

広報研究の発展に資すると思われる書籍であれば、ジャンルは問いません。掲載可否は委員会において決定します。

このほか、詳細は「投稿規定」および「投稿の手引き」を必ずご参照ください。
学会 Web サイトに掲載しています。

<https://www.jscs.jp/publishing/regulations.html>

以上